第１学年　　道徳科学習指導案

１　主題名　　　心の弱さを乗りこえるために　　　【Ｄ－（22）よりよく生きる喜び】

（教材名「銀色のシャープペンシル」　出典：東京書籍「新しい道徳１」）

２　生徒の実態とめざす姿

＜こんな生徒を＞　男子13名，女子16名

・明るく，自分の考えを素直に伝えることができる生徒

・仲間の考えを受け止めることができる生徒

・自らの心の弱さを自覚し，乗り越えようとし始めている生徒

＜こんな教材で＞

自分が無断で借り，返し忘れていたシャープペンシルを，「盗んだ」とまくしたてられた主人公。とっさに嘘をついてごまかした後，ばれなければいいとの思いでこっそり相手のロッカーに返した。その結果，相手が主人公を疑っていたことを逆に謝罪させてしまうことになった。自分も相手も裏切っている自責の念と，相手のせいにしたままにしておきたい心の弱さ。葛藤をどう乗り越えていくのかを真剣に考えている主人公に自分自身を重ね，心の弱さを乗り越える道徳的実践意欲と態度を養いたい。

＜こんな手立てで＞

**【手立てⅠ　発問の工夫】**

授業の前半では，主人公の心情に寄り添う発問をすることで，主人公の心の弱さを共有する。後半では，この資料の先を創造する発問をする。自分事として考えるなかで，心の弱さを克服することの大切さを気づかせたい。

**【手立てⅡ　学習活動の工夫】**

　少人数グループでの話し合いでは，グループの考えを整理するために，ホワイトボードを用いる。授業の後半では，役割演技を行う。登場人物に感情移入することで，引き出した思いを，さらに自分ごととして深めさせたい。

**【手立てⅢ　つなげる工夫】**

　よりよく生きる喜びの単元を連続で行う。前時では，心の強さに焦点を当てて，そうなるための行動や心のあり方について問う。本時では，逆に心の弱さに焦点を当てる。心の弱さを乗り越えた先にある強さをめざして，道徳的実践意欲と態度を高めたい。

【道徳】（１０月）本時

【道徳】(11月)

「ライバル」

Ｂ-(8)友情，信頼

　様々な価値観でとらえられた友情について考えることで，本当の友情や，仲間を信じる心の大切さを考えさせる。

【道徳】(10月)

「二つの涙」

Ｄ-(22)よりよく生きる喜び

　実力的には上の自分たちが，全力で戦うべきかという葛藤を通して，様々な思いを受け止め，より良く生きる喜びについて考える。

【道徳】(９月)

「ワクチンは誰の元へ」

Ｄ-(19)生命の尊さ

　友人の子に優先してワクチンを与えるべきかという葛藤を通して，かけがえのない命の大切さと，平等の難しさについて考える。



＜こんな生徒に＞

・様々な状況や仲間の考えを考慮した上で，自分の考えを伝えることができる生徒

・自らの心の弱さと向きあい，乗り越えていくことができる生徒

３　本時の指導

（１）ねらい

　　　・主人公の心の弱さに寄り添い，また，乗り越えようとする姿を自分自身と重ね合わせることで，心の弱さを乗り越えていく意欲を高める。（道徳的実践意欲）

（２）準　備

　　　教師：ワークシート，文章資料，写真資料，ホワイトボード

（３）学習過程

|  |  |
| --- | --- |
| 学　習　活　動 | 指導の手立て  【◎：本時の中心となる手立て】 |
| ◇資料を読む  僕の心臓がどきどき音を立てたのはなぜだろう？  ◇学級全体で意見を出しあう  ◇グループで相談する  〈嘘がばれたくない〉  ・ばれなかったからそのままでいい  ・今さら本当のことは言えない  〈正直に言いたい〉  ・もともと自分が悪いのだから  ・卓也に申し訳ないことをした  ◇役割演技を行う  この後、どうなると思いますか？  〈卓也〉 役割演技  ・疑っていたことを謝ってよかった  ・お互い正直に言うことができて安心した  〈僕（主人公）〉役割演技  ・ごまかしたことも含めて謝りたい  ・卓也との関係をこのままにしたくない  役割演技の言動や表情について、観客に問う  ・正直に言うまでは，もじもじしていて，やっぱり自分の嘘を認めていくことはすごく勇気がいると思った。  ・僕が正直に言ったことで安心した表情は分かるけど，卓也もなんだか安心した顔に見えて，温かかった。  ◇ワークシートに記入する  ・自分の弱さを認めることで，すごく強い心になったと思う。自分も，そういう強さを手に入れたい。 | ・「なぜそう思うか」などの問い返しを行うことで，生徒の心を揺さぶる。（手立てⅠ）  ・多面的に考えるために，「自分で買った」と言ってしまった時や，卓也に「ごめん」と言わせてしまった時の気持ちを補助発問で聞く。（手立てⅠ）  ・グループの考えを整理するために，ホワイトボードを用いる。（手立てⅡ）  ・意見を出しあう中で，「僕」と「卓也」の心情に近い生徒を指名する。  ・自分ごととしてとらえるとともに，より多くの価値観に出合わせるために，役割演技を行う。（手立てⅡ）  ◎役割演技を観た観客側の生徒から，演者の言動について問う。演者に感情移入し，得られた本音を学級全体でぶつけさせることで，生徒それぞれの「心の弱さを克服する実践意欲」を高める。（手立てⅠ） |

（４）評　価

　　　・主人公の心の弱さを認め，理解しながらも，それを乗り越えようとすることの大切さを考えることで，自分自身の弱さを克服しようとする意欲が高まったか。（発言・振り返りから）